

はじめに

多摩森林科学園のサクラ保存林には、伝統的な栽培品種および各地の名木などのクローンが約600ライン収集され、総数約1300本のサクラが植栽されています。このパンフレットでは、それらのうち染井吉野と関連のサクラに焦点をあてて紹介しています。

全国に広く植えられ桜前線や開花予想の対象でもある染井吉野は、明治期に広まった比較的新しい栽培品種で、起源には野生種のエドヒガンとオオシマザクラの関与が知られています。華やかな染井吉野とその仲間のサクラをお楽しみください。

多摩森林科学園長
吉丸 博志

多摩森林科学園における サクラ保存の取り組み

科学園のサクラ保存林は、農林省の桜対策事業の一環として、公害や老化によって衰退するサクラを保存することを目的に1966年度に設置されました。以後、古くからの栽培品種や各地の名木などさまざまな桜が導入され、保存・研究が行われてきました。

桜の保存は、接木や挿し木といった方法で行われます。原木から芽や枝を採取し、他の木の根株に接いだり（接木）、枝から根を出させる（挿し木）ことで個体を増殖する方法で、原木と同じ遺伝子を持つ個体（クローン）の増殖を行います。サクラ保存林は、こうした接木で増殖したサクラを後世まで伝えることが目的です。したがって、どのような原木から増殖したのか、その由来がきわめて重要です。そこで科学園では、同じ由来を持つサクラを一単位とし栽培ラインとして管理しています。このパンフレットや保存林の表示板には、この栽培ライン名を表示しています。なお、参考情報として、生物の基本単位である種名や栽培品種名、導入元などについても表示しています。

桜めぐりマップ

サクラ保存林で見る

染井吉野の仲間

独立行政法人 森林総合研究所
多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81

電話： 042-661-0200

E-mail: kouhotama@ffpri.affrc.go.jp

ホームページ： <http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk>

制作： 多摩森林科学園 岩本宏二郎

勝木 俊雄

発行：2014年3月10日



独立行政法人 森林総合研究所
多摩森林科学園

‘染井吉野’の生い立ち

‘染井吉野’は日本を代表するサクラの栽培品種ですが、その生い立ちはよく判っていません。江戸時代の終わり頃に江戸の染井村(現 東京都豊島区)から「吉野桜」として広まったことは記録されています。ただし、奈良県の桜の名所である吉野に多いヤマザクラとは異なることが明治時代に明らかになり、「染井吉野」と名付けられました。さらに全国のサクラを調べた結果、野生では見られない栽培品種であることがわかってきました。韓国の濟州島起源説も示されましたが、1916年に日本のサクラを西洋に紹介したE.H.Wilsonはエドヒガンとオオシマザクラの雑種説を唱えました。そして、1960年代に竹中要が実際に育成した種間雑種などと比較した一連の研究結果から、エドヒガンとオオシマザクラの雑種説が広く認められるようになりました。現在ではDNAの分析結果からも母親はエドヒガン、父親はオオシマザクラと確認されていますが、実際にどのように生まれたのかは謎のままです。

遺伝学研究所と桜

静岡県三島市にある国立遺伝学研究所は1949年に文部省所管の研究所として設立されました。設立に係わった東京大学の篠遠喜人教授によって、埼玉県の安行(現 埼玉県川口市)に保存されていたサクラの栽培品種を導入したことが、遺伝研の桜コレクションの始まりです。1953年に遺伝研の細胞遺伝部長となった竹中要はそれまで曖昧であった‘染井吉野’の起源に関する研究をおこないました。竹中は‘染井吉野’の種子から得た個体やエドヒガンとオオシマザクラの交雑個体などを実際に育成し、その形態を比較しました。この結果こうした雑種個体は‘染井吉野’に近似しており、‘染井吉野’がエドヒガンとオオシマザクラの雑種であることを示しました。また、この研究過程で育成したサクラの中には竹中が名付けて増殖したものがあります。‘咲耶姫’や‘衣通姫’など観賞価値が高いサクラも含まれており、現在でも遺伝研やサクラ保存林をはじめ、植物園などで見ることができます。

サクラ保存林の染井吉野

サクラ保存林には全国から集められた名木や栽培品種など様々なサクラが保存されています。その中にはもちろん栽培品種としての‘染井吉野’が10栽培ライン29本あります。サクラ保存林でも‘染井吉野’は大きく育ち見事な花をつけています。そして国立遺伝学研究所の竹中要が研究対象とした種間雑種としてのソメイヨシノ(エドヒガンとオオシマザクラの雑種)が15栽培ライン69本あります。これらは研究試料としてだけではなく、美しい花を楽しむ観賞木としても重要な存在です。またこの他に‘染井吉野’が片親と考えられるサクラが20栽培ライン46本あります。全国に植えられている‘染井吉野’は様々なサクラと交配して、子どもをつくっているのです。中には‘染井吉野’とはまったく似ていないサクラもあって驚かれるかもしれません。サクラ保存林ではこうしたサクラについて、最近の遺伝子分析を用いたクローン識別をもとに、系統保全と研究をおこなっています。



染井吉野の仲間 解説

3つのグループに分けて解説しています。

栽培品種の‘染井吉野’

遺伝研の染井吉野研究で育成された桜

‘染井吉野’が関わる雑種など

①栽培ライン名：原則的に導入元と導入時の名称を栽培ライン名としています。ただし、明らかに間違った名称で導入された場合や、原木の現地名と大きく異なっている場合などは変更した名称を用いています。②種名：各栽培ラインの種名を示しています。変種は区別していません。雑種は識別が可能な種について示しています。③栽培品種名：栽培品種名がある場合に示しています。栽培品種名はない場合もあります。④導入元：導入元の組織名・地名・人名等と市町村を示しています。⑤解説：各ラインに対する簡単な解説をしています。⑥開花期：開花期の目安を早春・盛春・晩春の3段階と秋咲きについて示しています。

①神代の染井吉野じんだいのそめいよしの ②エドヒガン×オオシマザクラ ③‘染井吉野’ ④神代植物公園 東京都調布市 ⑤神代植物公園以前の由来不明‘染井吉野’の花は大輪白色一重咲き 萼筒が有毛でわずなかくびれがあることが特徴 ⑥盛春

①開成山の桜かいせいざんのさくら ②エドヒガン×オオシマザクラ ③‘染井吉野’ ④開成山公園 福島県郡山市 ⑤明治初期の安積開拓の折に開成沼周辺に約4000本の桜が植えられたのがはじまり 現在では郡山の代表的な桜の名所 ⑥盛春

①安行の御帝吉野あんぎょうのみかどよしの ②エドヒガン×オオシマザクラ ④安行見本園 埼玉県川口市 ⑤安行から奈天として導入されたが、竹中が遺伝研でエドヒガンとオオシマザクラを交配して育成した御帝吉野と推定 ⑥盛春

①伊豆吉野いずよしの ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤1957年に竹中がエドヒガンにオオシマザクラを交配させて育成した‘染井吉野’より萼などに毛がやや少ないことが特徴 ⑥盛春

①吉祥寺ききちょうじ ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が東京都大島町の大島公園の‘染井吉野’の実生から育成したオオシマザクラが交雑したと推定される ⑥盛春

①京都の天城吉野きょうとのあまぎよしの ②エドヒガン×オオシマザクラ ④京都植物園 京都府京都市 ⑤1957年に竹中がエドヒガンにオオシマザクラを交配させて育成した 遺伝研の天城吉野とも遺伝子型は一致 ⑥盛春

①咲耶姫さくやひめ ②エドヒガン×オオシマザクラ ③‘咲耶姫’ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が‘染井吉野’の実生から育成した個体由来 花は大輪微淡紅色、八重咲きであることが特徴 ⑥晩春

①修善寺桜しゅぜんじざくら ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤修善寺寒桜として導入された 竹中が小石川植物園にあったエドヒガンの実生から育成した修善寺桜の間違いと推定される ⑥晩春

①昭和桜しょうわざくら ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が東京都大島町の大島公園の‘染井吉野’の実生から育成した オオシマザクラが交雑したと推定される ⑥晩春

①駿河桜するがざくら ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が1951年に三島市谷田城の内にあった‘染井吉野’の実生から育成した オオシマザクラが交雑したと推定される ⑥盛春

①衣通姫そとおりひめ ②エドヒガン×オオシマザクラ ③‘衣通姫’ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が‘染井吉野’の実生から育成した個体由来 花は大輪一重咲きで、‘染井吉野’より濃い淡紅色が特徴 ⑥晩春

①染井匂そめいにおい ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が東京都大島町の大島公園の‘染井吉野’の実生から育成した オオシマザクラが交雑したと推定される ⑥晩春

①浪速桜なにわざくら ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤東京都大島町の大島公園の‘染井吉野’の実生から1957年に育成した オオシマザクラが交雑したと推定される ⑥晩春

①船原吉野ふなばらよしの ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が静岡県伊豆市の船原峠付近で見つけた エドヒガンとオオシマザクラの天然雑種 染色体数は3倍体 ⑥盛春

①三島桜みしまざくら ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が三島市谷田城にあった‘染井吉野’の実生から育成した オオシマザクラが交雑したと推定される ⑥盛春

①早生吉野わせよしの ②エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤竹中が遺伝研でエドヒガンとオオシマザクラを交配して育成した‘染井吉野’より1週間ほど早く咲く ⑥盛春

①川崎の紅鶴かわさきのべにづる ②マメザクラ×エドヒガン×オオシマザクラ③‘紅鶴桜’ ④川崎哲也 埼玉県 ⑤真鶴町で発見した川崎から導入 マメザクラとオオシマザクラの雑種に‘染井吉野’が交雑したと推定される ⑥晩春

①川崎の水玉かわさきのみずたま ②マメザクラ×エドヒガン×オオシマザクラ ④川崎哲也 埼玉県 ⑤神奈川県真鶴町の真鶴半島の雑木林で見つけた川崎から導入 マメザクラと‘染井吉野’が交雑したと推定される ⑥晩春

①仙台吉野せんだいよしの ②エドヒガン×オオシマザクラ ③‘仙台吉野’ ④船津金松 東京都 ⑤船津以前の履歴は不明 ‘仙台吉野’は宮城県仙台市の坂庭清一郎が‘八重紅枝垂’に‘染井吉野’を交配して育成した ⑥晩春

①三島の勝道桜みしまのしょうどうざくら ②マメザクラ×エドヒガン×オオシマザクラ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤日光植物園の久保田秀夫から遺伝研を通して導入された マメザクラと‘染井吉野’の雑種と推定される ⑥盛春

①茂庭桜もにわざくら ②チョウジザクラ×エドヒガン×オオシマザクラ ③‘茂庭桜’ ④遺伝学研究所 静岡県三島市 ⑤福島県福島市飯坂町茂庭で発見した今野礼三から導入 チョウジザクラと‘染井吉野’が交雑したと推定 ⑥盛春

①結城の思川ゆうきのおもいがわ ②マメザクラ×ヤマザクラ×エドヒガン×オオシマザクラ③‘思川’ ④日本花の会 茨城県結城市 ⑤以前の履歴は不明 ‘思川’は‘十月桜’の実生から育成 ‘染井吉野’が交雑と推定 ⑥晩春

①陽光ようこう ②カンヒザクラ×エドヒガン×オオシマザクラ③‘陽光’ ④高岡正明 愛媛県 ⑤育成者に由来 ‘陽光’は高岡が天城吉野にカンヒザクラを交配して育成した 花は淡紅紫色で‘染井吉野’より早く咲く ⑥盛春

①龍谷寺の盛岡枝垂りゆうこくじのもりおかしだれ ②ヤマザクラ×エドヒガン×オオシマザクラ③‘盛岡枝垂’ ④龍谷寺 岩手県盛岡市 ⑤原木から導入 枝垂桜と染井吉野の雑種と推定されていたが‘染井吉野’は関係ない ⑥盛春



安行の御帝吉野

吉祥寺

京都の天城吉野

駿河桜

修善寺桜

染井匂

昭和桜

浪速桜

三島の勝道桜

船原吉野

川崎の水玉桜

三島の勝道桜

龍谷寺の盛岡枝垂

多摩森林科学園サクラ保存林 染井吉野の仲間 植栽箇所案内図

・図中の数字は、歩道沿いに設置された標識杭の番号を示しています。
・本地図の地形データは国際航業株式会社から提供を受けたものを利用しています

※3月中旬
～5月上旬



0 25 50 100メートル